

ちいさな芸術家たち ● その2 おえかきの声?

実験に協力してくれている4歳の男の子が、紙っぱいの大きな家を描くと、なかに四角い窓を描きはじめました。8階建てのりっぱな家ですから、窓もたくさん必要です。5階分ぐらいまで描いたときのこと。ふいにペンを止め、「『おえかき』って聞こえてる」と



「おえかき」の聞こえた絵。ほんとは階段でつながった部屋やトイレがあって14階建て。

言うのです。部屋のなかは静かで、だれも話をしている人はいません。わたしが首をかしげていると、また窓を描きだしました。ペン先が四角形の角を曲がるたびに、しゅ、しゅ、しゅ、しゅとこすれる小さな音がします。言われてみればなるほど、それが「お・え・か・き」に聞こえるということだったのです。

おとなはつい、なにが描かれているか、上手に描かれているか、いわば「結果」としての絵に注目してしまいがちです。けれど子どもの絵の真髄は、描く「過程」にこそあるといえるでしょう。はじめておえかきをする子どもも、ペン先が紙について点が残るだけでうれしそうに声をあげます。手を動かすとそれが目に見える軌跡となって表れる。あたりまえのように思えることも、最高に刺激的でおもしろいものです。おとなの「あたりまえ」をがらりと崩すような絵や行動を見せてくれる子どもたち。そのやわらかで純粋な心こそ、芸術する心のお手本のような気がしています。



お料理レシピ ● カルシウムをたっぷり!

妊娠・授乳期は、赤ちゃんのためにも、ママのためにもカルシウム摂取が必要です。今回は、簡単で、おいしい、カルシウムたっぷりレシピを紹介します。

管理栄養士でもある岡本秀己さん(滋賀県立大学人間文化学部)と岡本ゼミの学生のみなさんに考えていただきました。

大根の葉とじゃこの混ぜご飯



1人分の栄養素

| | |
|-------|---------|
| エネルギー | 350kcal |
| たんぱく質 | 13.7g |
| 脂質 | 4.8g |
| カルシウム | 212mg |
| 食塩 | 3.0g |

材料 ●●● 2人分
大根の葉 50g(2個分)、ちりめんじゃこ 40g、ご飯 300g(茶碗2杯分)、しょう油 大さじ1、酒 大さじ1、サラダ油 小さじ 1/2、白りごま 小さじ2

- 作り方 ●●●
- ①しょう油と酒は合わせておく。
 - ②大根の葉は、1cmに切っておく。
 - ③フライパンにサラダ油を熱して、ちりめんじゃこを炒める。
 - ④大根の葉を加えてさらに炒め、全体に油がなじんだら①を入れ、強火のまま水分を飛ばしながら炒める。
 - ⑤ごまを加えてさっと炒めて仕上げる。
 - ⑥ポウルなどに温かいご飯を入れ、⑤を加えて切るように混ぜる。

白菜と桜えびのミルクスープ



1人分の栄養素

| | |
|-------|---------|
| エネルギー | 138kcal |
| たんぱく質 | 10.5g |
| 脂質 | 6.1g |
| カルシウム | 378mg |
| 食塩 | 1.2g |

材料 ●●● 2人分
牛乳 カップ1と1/2、白菜 150g、桜えび(乾) 15g、しょうが 1かけ、固形スープの素(チキン) 1/2個、塩・こしょう 少々

- 作り方 ●●●
- ①白菜は5~6cmの長さ・1.5cm幅に切り、しょうがは皮をむいて千切りにする。
 - ②鍋に1と水1/4カップ、固形スープの素を入れてふたをし、中火にかけて7~8分蒸し煮にする。
 - ③白菜がしんなりしたら桜えび、牛乳を加えてひと煮立ちさせたら、塩・こしょうを加えて味を調える。



ツナヒジキサラダ



1人分の栄養素

| | |
|-------|--------|
| エネルギー | 75kcal |
| たんぱく質 | 5.0g |
| 脂質 | 4.5g |
| カルシウム | 153mg |
| 食塩 | 1.2g |

材料 ●●● 2人分
芽ひじき 20g、きゅうり 1/2本、塩(きゅうり用) 少々、白ねぎ 3~4cm、ツナ缶 1/2缶、粗引きこしょう 小さじ1/2~1弱、ポン酢 小さじ2、レモン汁 小さじ1

- 作り方 ●●●
- ①芽ひじきは水(分量外)で柔らかくもどし、軽く水洗いする。きゅうりは斜めに薄切りにしてから千切り、塩を絡めて水気が出たらかたく絞る。
 - ②ポウルに芽ひじき、きゅうり、白ねぎを合わせ、粗引きこしょうを振ってよく混ぜる。
 - ③②のポウルに水気を切ったツナを混ぜ、ポン酢、レモン汁を振り、軽く混ぜる。面を上。5分くらいつけたら、ひっくり返してまた5分ほど漬け込む。

うみかぜだより 2009.12.20 第6号



こんにちは!
「うみかぜだより」です♪♪♪

子どもたちが安心して健やかに暮らすことのできる社会、その実現は多くの人々の願いです。しかし、この秋冬、子どもを守るこの前途多難がますます顕わになってきています。

本年11月17日付の朝日新聞「声」欄に大津市の保育園長、下村勉さん(あいあい保育園)の「許せぬ保育所の基準緩和」と題する投稿が掲載されています。鳩山内閣が打ち出した認可保育所の最低基準を緩和する方針への抗議の一文です。政府はこの方針を待機児童解消のため、と説明しています。しかし、現行のものは戦後まもない1948年に制定された「当時の最低基準」です。多くの保育園がこの基準を上回る環境整備のために努力してきたなか、この現行基準にも満たない施設を21世紀の日本の保育所として認めるといえるのでしょうか。子どもの保育環境が一層劣悪になりかねないことを危惧して、下村さんをはじめ全国の保育関係者は、待機児童解消のためには保育所の増設を、保育のための財源確保による保育環境のさらなる整備を、と主張しています(全国保育協議会・全国保育士会緊急アピール「子どもの育つ環境を壊さないでくださいー認可保育所の最低基準の堅持を!」2009.10.9)。保育士や、保育学・発達心理学など保育にかかわる分野の研究者からなる日本保育学会も、乳幼児の発達保障という観点から見逃せない、と強く抗議する声明文書を出しました(日本保育学会緊急アピール「認

可保育所における児童福祉施設最低基準の真の向上をめざして、良質な保育環境保障への政策拡充へー保育環境の質保障の責任は、持続可能な社会実現のために必要な、私たち大人すべての責任です」。

同じく大津市の保育園長、三上智代さん(本福寺保育園)も参加した全国社会福祉協議会実施の調査報告書では、保育の場における食寝分離(食べる部屋と寝る部屋を別々にする)の重要性に着目し、現行の最低基準では不十分であることを示して早々に改善するべきと提言しています。同報告書には、アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデン、ニュージーランドの6か国と比較すると、日本の子ども1人あたり基準面積がこれら諸外国と比較して低い水準にあることも述べられています。フランスでは県レベルで保育所施設推奨基準というものがあり、「施設入り口」として「一番大きな子どもが、着替えのために寝転んだり、座れたりするスペースを確保することが必要である」という条件も含まれるそうです(全国社会福祉協議会「機能面に着目した保育所の環境・空間に係る研究事業総合報告書」)。日本の、地域の保育所を構成する一つ一つの空間について、子どもにとっての最善を深く考えていきたいものです。厳しい財政状況にあるとはいえ、子どもは私たちの未来です。子どもたちを大切に育てるために、今何が必要なのか。...2010年もよろしくお願ひいたします。

おしらせ

ミニ学習会
1月8日(金)

滋賀県立大学交流センター2階研修室7・8(13:30~15:00)にて、地域の子育て情報について交流します。これから寒くなる時期、「みんなどこへ遊びに行っているの?」「このくらいの年齢の子は何をして過ごしているの?」「小さい子どもと一緒に安心して遊べる所はない?」「子どもと一緒に参加できる講座は?」など、みなさんがお持ちの子育て情報を交流しませんか? 皆様のご参加をお待ちしております♪

連絡先/子育て応援ラボ「うみかぜ」●tel.090-7343-2405 ●E-mail usp-umikaze@nifty.com ●URL http://umikaze.sub.jp/

うみかぜだより 第6号

発行 子育て応援ラボ「うみかぜ」(竹下秀子研究室内) 彦根市八坂町2500 滋賀県立大学人間文化学部 tel.090-7343-2405 fax 0749-26-7235
編集 上野有理・齋藤亜矢・竹下秀子・広田幸子・丸澤由美子

こんなとき、どうする？

前号では、自制心と自尊心についてお話ししました。自尊心を大切にしつつ、自制心を育てるためにはおとなは、どのようにかわったらいのでしょうか？少し具体例を挙げてみます。

- おやつ準備をしているとき、子どもが自分一人で先に食べようとしたときに「まだ、ダメ！」と言うかわりに、「もう少し待ってね。おやつを配るの、手伝ってね。」
- 何人かで遊んでいて、おもちゃの取り合いになったとき、「仲良くしないとダメでしょ！」と言うかわりに、「どうしたのかな。みんなそのおもちゃで遊びたいのね。みんなが気持ちよく遊ぶにはどうしたらいい？」
- お母さんが電話しているときに子どもが話しかけてきたら、「静かにして！」と言うかわりに、子どもの方を向いて「この電話が終わったら、お話し聞くから待っててね。」と伝えて、再び受話器をとってはどうか。ただし、電話の相手、話の内容にもよります。

相手の気持ちに注意が向けば、自分の気持ちを少し抑えることができるようになります。周りの人の気持ちを考えて折り合わせていった結果、その子は叱られるのではなく、「～してくれてありがとう」とほめられることとなります。このとき、子どもは自分の気持ちを抑えること(自制すること)ができて、周りの人の役に立つことができたと誇り



とともに自制心を育てることができます。一方、自制しなければならぬときに子どもが自分の気持ちを抑えられないときは、まずは「〇〇ちゃんはそうしたいんやなあ！」と子どもの気持ちに共感して、その後で、「でもそれは無理なんよ…」ときっぱり伝えることが大切です。そして、子どもがちょっと我慢できたら、その頑張りをいっしょに喜びましょう。そしてほめてあげてください。そして、子どもを愛する気持ちを思い切り伝えましょう。自分の気持ちをしっかりと表現し、相手の気持ちもくみとってこそ、社会で生きることの喜びを味わうことができます。言葉の理解ができ始めるころから、ひとつひとつ、具体的場面をとらえてどうしたらよいかを親子で一緒に考えていくとよいでしょう。

また、4歳児によく見られる「しぐさ」に、爪かみ、性器をいじる、まばたき、ハンカチやタオルを持ち歩く、鼻をいじる、口を突いたりゆがめる、などがあります。これは、自分の「～したい」という気持ちを満たしたいけれども、周りの期待にこたえて、気持ちを折り合わせてゆくとときに、自分の心を支えるための行動として、何とか自制しようともがいているのでしょう。このときに、「そんなことするのはやめなさい！」とか「ほら、指！」とか言ったりすると、頑張っている子どもの自尊心を傷つけてしまい、自制心の発達が滞ってしまいます。そして、この「しぐさ」がやめられなくなったりすることもあるようです。「しぐさ」が目立つようになったとき、そこに育ちゆく子どもの心に丁寧に応じましょう。おとなは、子どもの辛さや頑張りに共感して、心の中で励ますことができます。子どもと一緒に感じて、考えて、子どもが何とか乗り越えていくのを見守ってあげたいですね。



● 参考文献 『子どもの発達と診断4 幼児期Ⅱ』 田中昌人・田中杉恵(著) 大月書店 『子育てってどうするの?』 広田幸子(著) サンライズ出版

インファンクラブでも人気のふあれい遊びのひとつです。お子さんをサンドイッチに見立て、手や頬、身体をキューとします。0・1歳児の子どもは、初めはキューとされると「なに？」といった表情をしていますが、何回かやっているうちにキューが心地よくなるようで、キャキャッと声をだして笑います。お母さんをジューッと見つめ、「もう1回」を要求する姿も見られます。2歳児以降の子どもたちは、「おしり!!」「おみみ!!」と手や頬以外の場所をキューしてほしいと要求したりもします♪

おとなだけでなく、お友達と一緒に遊ぶ姿も見られます。初めは1対1でキューをしている子どもたちも、そのうち3人でキュー、4人でキューと人数が増え、おしくらまんじゅうのようになることも♪「どこがいい?」「ここ!!」とお互いでキューして欲しい場所を伝えあい、相談しながら、遊びを広げていったりもします。

これから寒くなる時期。いっしょに「キュー」と触れあって、身体も心も温かくなってみてはいかがでしょうか。

手遊び
♪だっこでキュー♪

作詞作曲:二本松はじめ

イチニ サンドイッチ おててをキュー
ニニ サンドイッチ ほっぺをキュー
サンニ サンドイッチ だっこでキュー

お友達と「おててをキュー」♪



ママと「だっこでキュー」。とっても嬉しそう♪



お友達とみんなで「だっこでキュー」も楽しいね♪

世界の子育て



チベット

ヒマラヤ山脈の北、チベット高原を中心とした地域に住むチベット人は、一妻多夫婚(複数の男性と一人の女性が結婚する)をおこなうなど、世界的にも珍しい家族の形を作ること知られています。今回は現地で調査をされている棚瀬慈郎さん(滋賀県立大学人間文化学部)に、ヒマラヤ山中のチベット人家族の例をご紹介します。

私の滞在した村では、およそ4割の家で一妻多夫婚がおこなわれていました。1人の女性と結婚する夫たちは必ず兄弟です。通常は長男が最初に結婚し、彼の妻と弟たちが順次結婚してゆくという形をとります。一妻多夫婚をおこなう理由は色々と考えられますが、チベット社会では伝統的に、一妻多夫婚は家の財産を細分化せず、しかも労働力を分散させない良い結婚の形であるとみなされてきました。

一妻多夫婚の中から生まれてきた子どもたちにも、その父親は定められます。私のいた村では、最初に生まれてきた男の子の父親は最年長の夫の子、2番目に生まれてきた男の子は2番目の夫の子……とされるのが普通でした。一方、女の子にはこのような規則はないのですが、それでも子どもたちの父親は母親によって必ず決定されます。ただし日常生活では誰が誰の子どもであるか、ということは殆ど問題になりません。子どもたちは何人もいる自分の母親の夫たち(ややくい言い方ですが)を全て「お父さん」と呼びます。夫たちも、自分の子どもと兄弟の子どもを区別することはなく全員を「息子」、「娘」と呼びます。村では3世代同居が原則です。このようない妻多夫婚もおこなわれているので、10人程度が一緒に住んでいるのが普通です。村のことを思い出すとき、いつも脳裏に浮かんでくるシーンがあります。夏の夜、食事は台所を兼ねた広い部屋で皆一緒に食べます。部屋を中心では鉄製のストープが赤々と燃え、大人たちは周りでお酒を飲みながら穏やかに談笑しています。子どもたちは子どもたち同士で部屋を駆けまわって遊んでいるのですが、やがて眠くなってこころり、こころりと倒れてゆきます。お母さんはその度子どもを抱き上げて、部屋の隅まで運び、毛布をかけてやりまします。

チベットの家族の事例は、人間の家族の形が多様であること、つまり現在私たちが「自然だ」と思っている家族の形が決して唯一のものではないことを示していると思います。



● 参考文献 『インドヒマラヤのチベット世界』 棚瀬慈郎(著) 明石書店